【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】令和4年12月21日(2022.12.21)

【国際公開番号】WO2021/229945
【出願番号】特願2022-522554(P2022-522554)
【国際特許分類】
H01R 24/38(2011.01)
【FI】
H01R 24/38

【手続補正書】
【提出日】令和4年10月3日(2022.10.3)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
内部空間を有する本体であって、前記本体の上部に前記内部空間に連通する穴が形成された本体と、
前記本体に収納された固定端子であって、
前記本体に固定された基部と、
前記基部から前記内部空間に突出する接点部と、を含む固定端子と、
前記本体に収納された可動端子であって、
前記本体に固定された基部と、
前記可動端子の前記基部から前記内部空間に突出して前記固定端子の前記接点部に向かって延びる板ばね部であって、前記穴の中心軸と交差する補助接点領域を有する板ばね部と、
前記板ばね部の先端に連なり、前記固定端子の前記接点部に下方から接触している接点部と、
前記板ばね部の両側部に設けられた脚部であって、各々が前記板ばね部の延びる方向とは異なる方向に突出するように曲がりながら延びて前記内部空間の底に接触する脚部と、を含む可動端子と、を備え、
同軸コネクタを前記中心軸に沿って見たとき、前記脚部それぞれの延びる方向は、前記板ばね部の延びる前記方向と交差する方向である、同軸コネクタ。
【請求項２】
内部空間を有する本体であって、前記本体の上部に前記内部空間に連通する穴が形成された本体と、
前記本体に収納された固定端子であって、
前記本体に固定された基部と、
前記基部から前記内部空間に突出する接点部と、を含む固定端子と、
前記本体に収納された可動端子であって、
前記本体に固定された基部と、
前記可動端子の前記基部から前記内部空間に突出して前記固定端子の前記接点部に向かって延びる板ばね部であって、前記穴の中心軸と交差する補助接点領域を有する板ばね部と、
前記板ばね部の先端に連なり、前記固定端子の前記接点部に下方から接触している接点部と、

前記板ばね部の両側部からそれぞれ突出して前記内部空間の底に接触した脚部と、を含む可動端子と、を備え、
前記板ばね部の前記補助接点領域がプローブにより上から押圧された状態のとき、前記板ばね部の上面のうち、前記プローブによる押圧部分は前記脚部が突出する部分よりも下にある、同軸コネクタ。
【請求項３】
請求項１又は請求項２に記載の同軸コネクタであって、
前記板ばね部において、前記脚部が突出する部分同士の間に、前記補助接点領域が位置する、同軸コネクタ。
【請求項４】
請求項１又は請求項２に記載の同軸コネクタであって、
前記板ばね部の両側部には前記脚部が複数ずつ設けられ、
前記脚部は、
前記板ばね部の両側部からそれぞれ突出して前記内部空間の底に接触した第１脚部と、前記板ばね部の両側部からそれぞれ突出して前記内部空間の底に接触した第２脚部であって、前記板ばね部の延びる方向において前記第１脚部と隣接するように設けられた第２脚部と、を含み、
前記板ばね部において、前記第１脚部が突出する部分同士の間の領域と、前記第２脚部が突出する部分同士の間の領域と、を含む範囲に、前記補助接点領域が位置する、同軸コネクタ。
【請求項５】
請求項１～請求項４のいずれか１項に記載の同軸コネクタであって、
前記同軸コネクタを前記中心軸に沿って見たとき、前記脚部それぞれの延びる方向は、前記板ばね部の延びる方向に垂直な方向である、同軸コネクタ。
【請求項６】
請求項４に記載の同軸コネクタであって、
前記同軸コネクタを前記中心軸に沿って見たとき、前記第１脚部それぞれの延びる方向及び前記第２脚部それぞれの延びる方向は、前記板ばね部の延びる前記方向から傾いた方向である、同軸コネクタ。
【請求項７】
請求項６に記載の同軸コネクタであって、
前記同軸コネクタを前記中心軸に沿って見たとき、前記第１脚部が、前記補助接点領域を通り前記板ばね部の延びる方向に垂直な線に対して前記第２脚部と対称に配置されている、同軸コネクタ。
【請求項８】
請求項６又は請求項７に記載の同軸コネクタであって、
前記同軸コネクタを前記中心軸に沿って見たとき、前記第１脚部の中心線同士の交点が前記第２脚部の中心線同士の交点と一致する、同軸コネクタ。
【請求項９】
請求項１～請求項８のいずれか１項に記載の同軸コネクタであって、
前記板ばね部の両側部から突出する前記脚部は、互いに内向きに曲がっている、同軸コネクタ。
【請求項１０】
請求項１～請求項８のいずれか１項に記載の同軸コネクタであって、
前記板ばね部の両側部から突出する前記脚部は、それぞれ下向きに曲がり、さらに互いに外向きに曲がっている、同軸コネクタ。
【請求項１１】
請求項１～請求項８のいずれか１項に記載の同軸コネクタであって、
前記板ばね部の両側部から突出する前記脚部は、それぞれ下向きに鋭角に曲がり、さらに互いに外向きに鋭角に曲がっている、同軸コネクタ。

【請求項１２】
請求項１～請求項８のいずれか１項に記載の同軸コネクタであって、
前記板ばね部の両側部から突出する前記脚部それぞれは、下向きに鈍角に曲がり、さらに上向きに鈍角に曲がっている、同軸コネクタ。
【請求項１３】
請求項１～請求項１２のいずれか１項に記載の同軸コネクタであって、
前記脚部それぞれは、前記板ばね部の側縁に接続される、同軸コネクタ。
【請求項１４】
請求項１～請求項１２のいずれか１項に記載の同軸コネクタであって、
前記脚部それぞれは、前記板ばね部の上面に接続される、同軸コネクタ。
【請求項１５】
請求項１～請求項１２のいずれか１項に記載の同軸コネクタであって、
前記脚部それぞれは、前記板ばね部の下面に接続される、同軸コネクタ。
【請求項１６】
請求項１～請求項１５のいずれか１項に記載の同軸コネクタであって、
前記板ばね部の一方の側部において前記脚部が突出する部分は、前記板ばね部の他方の側部において前記脚部が突出する部分と、前記板ばね部の延びる方向において対応する位置に配置される、同軸コネクタ。
【請求項１７】
請求項１～請求項１５のいずれか１項に記載の同軸コネクタであって、
前記板ばね部の一方の側部において前記脚部が突出する部分は、前記板ばね部の他方の側部において前記脚部が突出する部分と、前記板ばね部の延びる方向において位置をずらして配置される、同軸コネクタ。